

教科によるPDCA

～ 研究テーマ「学び合い、考える力を伸ばす授業を目指して」～

家庭科

平成19年度実践報告

1. 平成19年度の教科としての総括

ア. テーマ実現のための指導を振り返って、学習者が主体的に学びに向かうために行った工夫を具体的に挙げて下さい。

・必修課題としている課題解決型学習（ホームプロジェクト）の実践に向けて、例年より計画書の提出時期を早め、学習者の疑問に対してより早く対応し、提出されるレポートの質的向上をねらった。

・科目の中では比較的長期間にわたって取り組める調理実習（年間3回実践）においては、毎回アプローチの仕方を変えて、学習者が主体的に行う要素を増やした。

イ. テーマ実現のための指導の結果として、どのような変化が見られたかを具体的に書いて下さい。

・ホームプロジェクトのレポートについては、昨年度よりも質が向上しているように感じている。

発表後の生徒の感想は返却済みのため……………。

・授業評価アンケートによる集計は現在未実施のため……………。

<三回目の実習後の感想>

・今回は常にみんなが何かをしていて協力できていた。

・最後の実習ということで今までで一番気合いを入れて取り組んだと思う。レシピの段階でも材料を工夫したり、色合いやバランスを考えたりして、みんなで一生懸命考えた。作る時も今回初めて4人揃って準備からかたづけまでスムーズにすることができた。

・今回は自分たちでメニューを考えて作ったが、見た目にもこだわり、きれいにかつおいしく作ることが出来たと思う。

・最近家庭科の実習で料理する楽しみを知って、家でも親の手伝いを積極的にするようになりました。……………親も助かると言って喜んでくれました。……………正直手作り料理のスゴさがわかった。やっぱり自分で料理することはいろいろな結果になると思う。また家でも作っていこうと思うし、これから母の料理も一生懸命作ってくれていると思いあたりまえに食べるのではなく、感謝しないといけないと思った。

・今回は3回目ということもあり、各自の仕事が早く終わると他の人が担当していることを手伝ったり、皿洗いをしたりとむだな時間がなかったように思えた。

・自分たちでつくるものを考えてつくるというのは初めてだったので楽しかったです!! その分ぜんぶ自分たちで調べてやるのが大変でした。……………

・今回は前回・前々回よりもテキパキと動くことができた。

平成 20 年度実践報告

1. 第 1 回授業評価（6/26～7/18 実施）を受けて

ア. 前年度の成果と課題（本年度授業のめあて） Plan

〈成果〉

〈課題〉

授業内容を少しでも多く日常生活と関連づけさせ、意識した行動がとれるようにする。

イ. 取り組みの方法 Do

＜車椅子体験実習＞

班分け 実習上の注意 班毎にルートを決めスタート チェックポイント三カ所を通りながら、気付いたこと感じたことをプリントに記入しながら実習 実習後プリント提出
まとめのプリントによりさらに振り返りを行うことで「学び合い、考える力を伸ばす」

ウ. 第 1 回授業評価の結果分析と課題 Check

教科内の分野は非常に多岐にわたるが、協同学習が効果的な分野には限りがある。また、中学校・通信制課程との共有スペースしかなく、思うように効果的な学習方法を導入できないのが大きな悩みの種である。

例年、調理実習の行われる 2 学期・3 学期と比べて、環境・福祉分野が中心となる 1 学期は、厳しめの評価になりがちであるのだが、今回は教科独自の質問項目を可能な限り設け、1 学期間の授業内容の振り返りがしっかりできるようにしたところ、例年の 2・3 学期並の評価に落ち着いている。

質問項目 24 の結果は、環境問題に関する知識はありながら、実生活と結びつかない生徒が多いことの証明でもあるかと思うが、より生活を意識できるような工夫が全体を通して求められる。

エ. 2 学期に向けての改善の手だて Action

生徒が最も楽しみにしている調理実習も、時間の都合上一年間で 3 回程度しか行えないのが現状であるが、実習の取り組ませ方を昨年度以上に工夫し、準備から片付けまでの全ての過程において、回を重ねるに連れて、生徒がより主体的に動き、考えながら班毎に実習できるようにしたい。